

令和4年度 第2回学校評議員会記録

1 日時

令和5年2月7日（火）9:30～11:30

2 場所

本校会議室

3 参加者

(1) 学校評議員 7名

A氏（学識経験者）

B氏（教育関係有識者）

C氏（企業関係者）

D氏（福祉関係者）

E氏（PTA関係者）

F氏（企業関係者）

G氏（地域関係者）

(2) 本校職員 8名

校長、副校長（小中、高）、事務長、総括教務主任、学部主事（小、中、高）

4 内容

(1) 授業見学（9:30～10:00）

(2) 学校評議員会（10:00～12:00）

ア 開会のことば

イ 校長あいさつ

昨年度第2回学校評議員会は、コロナウイルス感染症の影響で書面開催でした。今年度の評議員会は皆さまにお集まりいただくことができ感謝申し上げます。

明日2月8日は高等部が作業製品販売会を実施する。ひがしの日以来の一大イベントであり、今回、子どもたちが一戸一戸の家庭にチラシを配るなどして地域の方にご案内を差し上げ、一生懸命取り組んでいるところです。本校を知っていただくためにも、なんとか成功させたいと思います。

本日の中身は、学校運営状況を各担当からポイントを絞って報告していただき、委員の皆さまからはたくさんご意見を頂戴できるようよろしくお願いします。

ウ 協議

(ア) 令和4年度学校運営状況について 校長（資料 p1）

a 学校経営に係る総括

- ・コロナ3年目で、様々な制限が緩和され、徐々に外での活動も多様な学習活動ができた。
- ・学校評価について、保護者の評価の肯定的評価の低下が見られ、保護者の理解が得られる

ような取組の必要があると考えた。

- ・施設設備の整備については、小中学部棟にボイラーがあるが、更新して快適に過ごしている。来年度は、高等部棟のボイラー工事を予定している。
 - ・GIGA スクール構想については、小中学部児童生徒用タブレット端末が配備になった。指導者用端末も配備され、併せて電子黒板も配備されて、学校として体制が整った。次は実践である。
 - ・新型コロナウイルス感染拡大の影響で、中学部は残念ながら修学旅行が中止になっていたが、2月8日から1泊2日で校外への宿泊学習を計画している。
 - ・今年度、新型コロナウイルスの罹患者について、1月末までの延べ人数として、児童生徒77名、教職員40名だった。流行期には学級閉鎖や学年閉鎖、学部閉鎖を行いながら感染防止に努めつつ、学習を進めた。
 - ・防災教育に関わったの部分では、今年度2回目になる、てしろもりの丘と合同避難訓練を行った。今回は2次避難を行い、てしろもりの丘の職員の方にも避難誘導をしていただき奥のグラウンドまで避難を行った。
 - ・学校防災アドバイザーである岩手大学の2名の先生方に来校いただき、研修を行い危機管理マニュアル等の見直しに関わるアドバイスをいただいた。
- b 学校教育目標達成のための具体的取組から (pp. 1-3)
- ・交流籍を活用した交流及び合同学習については、小学部29名、中学部4名実施した。
 - ・(4) 食育に関わる部分として、今年度は給食3年目であり、リクエスト給食など趣向を凝らしたメニューを提供してきた。栄養教諭を中心に授業の中でも食育に関する授業に取り組んでいる。本校職員の佐藤浩子栄養教諭は、今年度の文部科学大臣表彰を受賞した。
 - ・(5) に関わり、小学部では児童の実態をふまえ、重複障がい学級の自立活動を2時間減らして新に体育を2時間設定する見直しを行っている。教育課程については、各学部見直しを行いながら進めているところである。
 - ・(6) 地域への理解と信頼に関わり、授業参観について保護者向けに2回実施し、期日や時間を学部毎に分け工夫しながら実施した。学校へ行こう週間については、今年度は事前予約制とし111名来校いただいた。本校の活動をご理解いただく貴重な機会となっている。
 - ・情報発信の部分では、本校のWeb ページは6,000件を超えるアクセスがあったということで広く見ていただいている。
 - ・地域資源の活用の取組として、小学部はコロナが緩和され校外に出掛ける機会を増やし、中学部では地域のごみ拾いや国道396号線沿いの産直、ミ・カフェで作業製品の販売を行った。高等部では地域のさんさ太鼓をお借りして、授業に活用させていただいた。
 - ・(7) に関わって、PTA 活動においては、施設見学や年金制度説明会を実施した。残念ながら給食試食会は新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となったが、事前にアンケートをもとに、事業部だよりを発行し昨年度より活動することができた。
- c 組織運営 (pp. 3-4)
- ・職員研修として、授業改善の参考となる情報提供を行う目的で、副校長から「ひがし通信」を作り17号まで発行している。
 - ・外部講師の研修も計画し、コンプライアンスについて、人権にかかわる研修やアンガーマネジメントに関わる研修も行っている。
- d 来年度にむけて (p4)

- ・新型コロナウイルス感染症については、ゴールデンウィーク明けには5類に移行する報道もあり、制限を緩和していく流れの中で、児童生徒が多様な学びができるよう行っていきたい。
- ・来年度から学校運営協議会という、地域に開かれた学校、地域に貢献する学校を目指し、本校も取組を進めたい。運営協議会の委員の皆様とともに活動を考えていきたいと思っている。

(イ) 令和4年度の主な事業の実施報告について（資料なし）

a 各学部の経営状況について

(a) 小学部

学部目標に向かって指導にあたり、それぞれの成長につながったという反省をした。子どもたちはそれぞれの目標に向けて学習し、それぞれのペースに合わせた学習を進めた。

目標にもある「楽しく学ぶ」というところ、小学部にとっては重要なところだが、成長が見られた。また各教科等を合わせた指導で、基本的な生活習慣に関わることやルール、社会性にかかわることなどについて、一年を通して指導してきており、それぞれの成長を感じている。困難なケースについては、学級や学年、学部や相談支援部と連携しながら指導の充実を図ることができた。

(b) 中学部

10月に転入生が入り生徒数が増えた。作業学習においては新製品をつくり、地域へ販路を開拓した。

ランニングでは、冬は校内のスロープを使用するなど、場所などを工夫して一年を通して取り組んでおり、だいぶ生徒の体力がついてきた。

地域との関わりについて、盛岡市都南村合併30周年事業への製品販売で参加することができた。花育についてはハーバリウム作りを外部講師を招いて学んだり、地域の産直やカフェなどに委託販売をお願いして、実際生徒たちが出向いて納品したりした。実際の活動期間は1か月程度ではあるが、地域の方々にも知っていただいた。

新型コロナウイルス感染症の影響で行事が中止となったり、スポーツ大会も中止となったりした。生徒が増え、学習の場の確保が難しいが、工夫して取り組みたい。

(c) 高等部

高等部では、自立に向けて6つの目標を立てて1年間取り組んできた。運営方針の中で地域資源の活用と地域貢献に新たに取り組むことを加えた。

地域貢献としては、3年生はゴミ拾いをした。また、地域のさんさ太鼓を借用して練習を通し、ビデオメッセージをやりとりすることができた。地域を広く捉えると、ふれあいランドの施設を使用しトライスポーツに向けて2週間陸上練習に取り組んだ。

また、都南大橋の下のパークゴルフ交流やウォークラリーにも取り組むことができた。地域活動をとおして本校のことをもっと知っていただくよう、活動を計画的に盛り込んで取り組んでいこうと思っている。

高等部の生徒は、人間関係を築くのに困難な生徒もいるが、3年間の集団活動をとおし、人との関わり方を覚え、卒業時には周りの人たちとより良く関わられるよう、実習等を通して成長できるようにしていきたい。

b 次年度の入学予定者状況について (p8)

資料は2月1日現在の入学予定者をまとめている。小学部10名で3学級、中学部13名で3学級、高等部20名で4学級の予定になっている。

各学部とも児童生徒数は増加しており、今年度と比べると小学部は+6名、中学部+3名、高等部+7名と、全体で16名増加という予想である。教室の配置や特別教室の使い方など、一層の工夫が必要となる。

(ウ) 令和4年度学校評価結果について (pp.9-14)

- ・調査期間は新型コロナウイルス感染症の影響が大変な時期で、高等部閉鎖が重なり、100%回収とはいかずの状態だった。そのような中、保護者からはできる限りの回答をいただいた。
- ・教員の自己評価に関して、スケールに関して、肯定的評価とは「大いにそう思う」と「そう思う」を合わせて肯定的評価とし、「全く思わない」「あまり思わない」を否定的評価として表をつけた。
- ・教員の自己評価に関しては評価が上がっている。肯定的評価は昨年度を上回っている。注意したいのが内訳である。積極肯定「大いにそう思う」が減り「そう思う」の割合が増加している。全体的には肯定評価が上がっているが注意してみていかなければならない。
- ・保護者アンケート結果については、令和4年度は、昨年度に比べてほぼ全てで下がっている。
- ・保護者アンケートの自由記述については、複数回答があった内容として、個別面談週間の給食実施に関してが4名、児童生徒休業日の多さに関して3名、運動会に関してが2名、特性にかかる配慮に関しては2名などとなっている。
- ・保護者アンケート結果について、積極肯定「大いにそう思う」を取り出すと、実は昨年度を上回っている項目が複数ある。今回、肯定的回答が減ったのは、積極肯定が減ったのではなく、肯定回答「そう思う」が減ったことが一つに挙げられる。また、否定的回答の増加見られる。「わからない」という回答も増加している。以上のことを踏まえると、保護者アンケート結果の今年度の傾向として二極化していることがうかがえる。
- ・職員と保護者の肯定的回答を比較し、保護者との意識のずれを比べた。Q5の進路指導関係、Q11のいじめの未然防止早期発見、Q13の地域に発信する取組において大きくなっている。この3つで保護者と教職員の意識の違いが大きいと感じている。職員は取り組んでいるつもりであっても、保護者は肯定的にとらえていない、あるいは取組の真意や情報が十分に伝わっていないことが考えられる。
- ・生徒アンケートについて、中学部に関してはQ4、5、7が昨年度と比較して増加がみられる。この項目は、中学部は、授業に大きく関係する項目で、授業に代表される教育活動において充実している生徒が多いことが伺える。高等部に関してはQ1、4、5、6、7が増加しており、特にQ7は25ポイントを超える大幅な増加がみられている。多くの高等部生徒にとって教職員との信頼関係が構築され、安心して授業に臨める環境であろうことが伺える。
- ・最後にまとめとして、全体的に職員の自己評価は高く、保護者評価は昨年度より下がっており、中学部生徒高等部生徒の結果は高いことを総合的に考えると、学校での教育活動における意図や取組が、保護者の方々に十分に周知されていないことが一つの要因と分析したところである。特に意識のずれが大きかった、進路指導関係、いじめの未然防止関係、地域への発信については、次年度に向けて、保護者とのコミュニケーションを密にして、意図取り組みを保護者に知ってもらうことを注視して取り組んでいく。

- ・ 今後は、教育活動の質を更に高めていくことはもちろんのこと、安全・安心な学校生活の保障を大前提として、家庭、地域、関係機関との情報共有や意見交換等コミュニケーションを一層図り、共通理解のもと、児童生徒の資質・能力を高め、信頼される学校づくりを図っていきたいと考えている。
- (エ) 令和4年度いじめアンケート実施結果について (pp. 15-16)
- ・ 児童生徒調査は年2回実施し、その後校内いじめ防止対策委員会を年2回開催して、回答内容の検討と必要な対策等を話し合った。
 - ・ 障がいの特性による他者との関わり方に課題を要する児童生徒が他者の言動に敏感に反応することによって事案に発展するケースが多かった。いじめの定義については、一定の人間関係があって心理的・物理的影響を与えるものである。心身の苦痛を感じているといじめが成立する。
 - ・ 資料の件数は、児童生徒から挙げた内容を一つ一つ審議して認知した件数である。
 - ・ 我々も、被害児童生徒を守る意識をもち、いじめを見た、聞いたという生徒についても、積極的な報告をお願いしている。いじめを生み出さない、解決するような土壌づくりを目指し取り組んでいる。
 - ・ 保護者アンケートは10月に1回実施した。保護者からの回答内容は、教職員が把握しているものでもあり、継続的に指導や見守りを行っている。引き続きいじめを許さない環境づくりに取り組んでいく。
- (オ) 令和5年度からの学校運営協議会（コミュニティ・スクール）立ち上げについて (pp. 17-18)
- ・ 今年度第1回学校評議員会で評議員の皆様研修を受けていただいた。来年度から「学校運営協議会」コミュニティ・スクールを導入することとなる。
 - ・ 「学校運営協議会制度（コミュニティ・スクール）」は、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能となる「地域とともにある学校」への転換を図るための有効な仕組みづくりである。
 - ・ より特色を生かした「学校づくり」を進めるため、「学校運営方針」の承認を大きな柱としながら、地域との協働活動に関連する課題について協議をすることとなる。
 - ・ 学校運営協議会の主な役割としては3つある。①校長が作成する学校運営基本方針を承認すること、②学校運営について、教育委員会又は校長に意見を述べるができること、③教職員に任用に関して、教育委員会規則で定める事項について、教育委員会に意見を述べるができることである。
 - ・ 特別支援学校においては、学校運営協議会を通じて、地域住民や保護者等に加え、医療、保健、福祉等の協力を得ることで子供たちが自立し社会参加できる環境の充実を図ることが期待されている。
 - ・ 現在行っている「学校評議員会」は今年度で終わりとなり、来年度から「学校運営協議会」を新たに立ち上げる。メンバーとしては、今までの学校評議員会の組織をベースとしながらも、学校運営に主体的に参画いただき、合議体として子供たちの健全育成や学校運営の改善に取り組んでいくことになる。
 - ・ 学校評議員会と学校運営協議会の違いとは、学校評議員会では、評議員から第三者としてのご意見や助言をいただくということになるが、学校運営協議会の委員は、我々学校の仲間として意見や助言をいただくことになる。共に手を携え学校運営を推進していくことになる。

- ・学校運営協議会の委員のメンバーの案は資料のとおりである。学校運営協議会委員予定名簿で名前が空欄のところは、人事異動や役割変更等で現時点で分からない方を空欄にしている、あくまでも予定。ここで、学校評議員の小笠原様については3年の任期満了である。小笠原様の今までのご意見ご助言とお力添えに大変感謝する。
- ・学校運営協議会は、基本的に年3回の開催を予定している。学校運営に関する基本方針の承認は、本来は3月だが書面で承認をいただき、実際には5月頃に集まっていた。11月は中間報告、2月に学校評価に係る会合を予定している。
- ・始めてのことなので、皆様にお伺いしながら進めていきたいと思う。

(カ) その他

a 校報ひがし第12号 (pp. 19-22)

- ・学校ホームページにも挙げているものである。紙媒体での送付は、近隣の学校やてしろもりの丘、新山地区に配付した。ここでも学校運営協議会に関しての情報も入っている。
- ・いじめ防止に向けた本校の具体的取組についても挙げている。第1回学校評議員会でも皆さまに資料としてお出ししたものである。

b 第37回障害者による書道・写真全国コンテスト 書道の部 (pp. 23-24)

- ・中学部2年4組の生徒が出品したものである。いもけんぴが大好きな生徒で、その思いを書いて賞をいただいた。次の全校朝会で賞状伝達を行う予定である。

c 高等部作業製品販売会ポスター (p25)

- ・明日2月8日13:20-14:40、本校で作業製品販売会を行う。高等部の作業班が作ったご覧のような製品を販売する。
- ・作業製品販売会に向けて、生徒たちが「どうやったら地域の方々に来てくれるか」アイデアを出し合った。1年生は新山地区の50軒のお宅にチラシを配付した。手を握って「頑張って」と地域の方々に励まされ、この地区の温かさを感じてきたとのことである。2年生は、お客さんが喜んでくれるような工夫ということで、ポイントカードを作り当日楽しんで販売会場を回っていただけるようなことを考えました。3年生は、地域の方々に宣伝したいというアイデアで、大きな看板を道路際にフェンスにつけ、目をとめてもらえるよう写真付きのものを作成している。ポスターも、新山地区自治会長さんを通じて配布させていただいた。ゴミ置き場の扉のところに貼っていただき、大変ありがたい。多くの方々に来ていただきたいと思っている。

d 令和4年度高等部3年生進路先一覧 (p26)

- ・入所が2名、就労移行1名、生活介護が1名になっている。2月1日現在のものであり、今後決まる生徒もいる。一般就労は1名、通所は就労移行1名、B型6名、生活介護1名となっている。

(オ) その他

これまでの提案等についての質問意見

【A 氏】 言語聴覚士、作業療法士を活用する際、児童生徒の生活上の困難とは何か。

- 【校長】 言語聴覚士、作業療法士に小学部の子どもを見ていただいた。
- 【本校職員】 言語聴覚士には年間5日間、作業療法士には2日間、計60時間でご指導いただいている。希望する保護者と確認を取った上で、具体的に子どもの姿を見ていただき、課題となるところについて、私たちに指導をいただいている。例えば口の動きや、発音、言語の獲得、身体のバランスなどみていただいて、例えば言語の障がいだと思っても、重い物を持たせてみてくださいと言われたりし、有効で具体的なアドバイスをいただいた。作業療法士に6月から9月くらいまでのところで見てもらっているが、姿勢などの成長の変容など確認していただいた。私たちが指導いただいたことを子どもに還元している。
- 【A氏】 小学部だけか。
- 【校長】 そうである。
- 【A氏】 校内のコーディネーターは誰が行っているのか。
- 【本校職員】 小学部だけなので、現在は教務部が行っている。担任から指導が必要な児童を挙げてもらい、保護者から確認を取り、言語聴覚士、作業療法士と連絡を取って進めている。
- 【A氏】 8ページのところで、県内全体では特別支援学校の児童生徒数は減っているが、盛岡ひがし支援学校は増えている。もともと学校としては、肢体不自由の学校の造りなので、知的障害のある子どもたちにとって施設的にどうなのかということがあがるが、今後まだ増える見込みなのか。これからまだまだ増えるのかを含め、将来推計など分かる範囲で教えてほしい。
- 【校長】 児童生徒数について、令和3年度は139名、令和4年度は143名、令和5年度は158名の見込みで、緩やかに増加している。令和6年度も徐々に増加する見込みである。矢巾町の人口増加や紫波町のニュータウン造成が背景にある。盛岡みたけ支援学校も増加している。地域の方々や子どもたちに特別支援学校のニーズが高まっている。
- 【A氏】 学校評価アンケートのところで14ページの、学校での教育活動における意図や取組が、保護者の方々に十分に周知されていないということが喫緊の課題だということだが、やってないわけではない。学校ホームページにアップしたり校報を出したりしているわけで、学部や学級毎の保護者の説明や様々な形で保護者とはお話をされていると思う。
- 【本校職員】 A氏がおっしゃるとおり、学校はやっていないわけではない。ただ、集計データ結果から見えることを基に考えた際、何が足りないのか模索中であることが正直なところである。
- 【A氏】 単に、何かの取組を増やすとか回数を増やすだけではなく、質の問題である。学校の問題だけではないので、さらに分析をしたほうが良い。
- 学校評価の保護者アンケートについては、どの学校でも評価が低く出る項目でもある。ある一定のスパンで見えていかないと、原因や要因はわからない。令和4年度から変えたことはあるはずなので、評価数字の上下で一喜一憂するべきではない。進路の項目で保護者が何を知りたいのか。また、学部ごとでデータを見て、その違いなど細かく見て行った方が良い。その方が具体的イメージを描きやすい。例えば、進路に関する結果が低く出ているが、進路情報など高

等部の保護者には切実な問題として意識高くなるが、小学部に入学したばかりだと、進路といっても漠然とした話になる。小中高の学部毎に見たときにどういった傾向があるのかとか、学部毎の違いなど細かく見ていった方が、何をしようを考えるときには具体的イメージを描きやすい。

【B 氏】 評価は重く受け止めてしまうし、悩むものである。子どもたちが楽しく、充実感があれば勇気をもらえる。

自分が赴任した時、緊急メールを使って生徒の様子を伝える通信のようなことをした際、長文のメールは「使わない」よう指示をした。緊急メールはあくまでも緊急メールである。通信などで見なくなっては元も子もない。しかし、保護者からの意見は、もっと学校の様子を知らせてほしいというものだった。手法や住み分けを考える必要がある。保護者の二極化が激しいので、保護者の評価に一喜一憂せず、学校としてのポリシーを失わずにいてほしい。

職員の「働きがい」の評価が下がっており、これは注視する必要がある。子どもたちの評価は素晴らしい。

【A 氏】 高等部の進路状況の中で、一般就労の1名の業種について、わかれば教えてほしい。製造業、サービス業など大きいくりでよいのだが、販売、製造、清掃、サービス、食品、流通など、具体的にどんな仕事か。

【本校職員】 その一般就労の業種は、どれにあてはまるかうまく答えられない。製品を整備しているが、スーパーのバックヤードではない。問屋でもない。

【A 氏】 昨年と比較して一般就労は増えているのか。来年の学校基本調査の時に高等部の生徒の進路先で業種分けて報告しなければならないと思うが、過去と比べてどうなのか。一般就労の子どもは、横這いなのか、増えてきているのか。

【本校職員】 去年は、介護施設とスーパーに一人ずつ就労した。就労移行サービスの利用も多かった。今年度の卒業生は、支援度が高く、B型が増えた。

エ 意見・提言

(ア) 【A氏】

令和5年度から学校運営協議会を導入するということだが、今回の評価に基づいて様々な取組をされるということになるが、学校の一番の目標が何かを明確にしていくことを大事にしていかなければならない。子どもたちが毎日学校が楽しいといっけて来てくれる、今日は学校で何を学んだ、こんなことができるようになったという、充実感満足感をもって一日を送れる学校を作ることが一番大切な事である。学校目標を大切にすること、子どもが毎日楽しいと言っけて来てくれる、充実や満足が一番大事である。運営方針の検討については、アンケート結果を生かしながらだが、学校の核が何かを常に確認をされながら対応してほしい。メンバーに私の名前もありますが、できることを協力させていただきたい。

(イ) 【B氏】

これからの学校は、地域との協働が大事だということを強く意識しなければならない。地域あつての学校であるが、地域におもねるものではない。参画していただく、一緒に進める上で学校運営協議会を進めること、地域にこのような学校があることを非常に心強く思っているので、今後ともよろしくお願ひしたい。

(ウ) 【C氏】

学校とは情報共有をさせていただき、細かな情報がもられた。(C氏の)所属施設は生活を支えている場として、新型コロナウイルスがあった際には、ご負担をかけたが、連絡をいただくことでクラスターにつながらずに済んでいるところもある。今後とも学校施設と連携していきたい。

(エ) 【D氏】

何を主軸に置くかが大事であると思った。実習に来た生徒が、私がマスクをかけて洋服も違うのに、(会った際)きちんと私を分かってくれてあいさつしてくれた。「昨日はありがとうございました。」と立派な挨拶をしてくれた。素晴らしい先生方の指導を見せてもらったと思います。

(オ) 【E氏】

先生方の前向きな姿勢を見た。一企業として、先生方と触れ合いながら、もっと話を聞きたいと思った。企業としてはお母さん方の話をもっと聞きたい。

5人の一般就労、本事業所では十数人いるが、盛岡ひがし支援学校の卒業生が2人いる。今の取組として、パソコンを使える子がいて、午後からパソコン操作を教えている。何をやっても勉強と思っている。先生たちからもっともっとご意見をいただきながら、学校の在り方、企業の在り方、色々考えていきたい、ご指導のほどよろしくお願ひしたい。

(カ) 【F氏】

生徒アンケートの中で、「学校は楽しいですか?」の質問があったが、楽しいか楽しくないかで学校にきているのではないという人が多いと思う。未来のために来ているんだけどなあ、という感じで「わからない」という回答をしていると思うので、先生方も気にしないで大丈夫と思う。これからもよろしくお願ひします。

(キ) 【G氏】

特にない。

(ク) 校長謝辞

本日はありがとうございました。ゴールデンウィーク明けに新型コロナウイルス感染症の対応が変わってくると、子どもたちも以前のように様々な活動が自由にできる方向になるのではと期待しています。学校としては、安心安全に子どもを預かることを大切にしたい。

学校運営協議会ですが、初めての取組として歩みを進めることとなる。地域にある学校として、様々な立場の色々な分野の方々とどういう方向性として進んでいけばよいか一緒に考えていきたいと思ひます。

D様におかれましては、3年間本校の学校評議員をしていただきました。大変お世話になり、感謝申し上げます。今後も地域にある学校として、実習などにおいて引き続き見守りいただき、ご指導ご支援を頂戴したいと思ひます。

今年は卯年ということで、うさぎ年は飛躍する年、繁栄する年とされています。本校もうさぎにあやかって大きく踏み出せるようになれば良いと考えています。

オ 閉会のことば